

06.6.8 一新塾名古屋勉強会 定例会記録

日時 平成18年6月8日(木) 19:00~21:30

場所 名古屋ボランティアNPOセンター

出席 大藪、加部、近藤、宮田

記録 宮田

1 NPO学会発表(加部)

納税者が決める税の使い道に関して、6月4日に新潟までNPO学会の学会発表に近藤、加部、白井の3名で行った。

これは1年前に近藤さんの論文を慶応大学跡田教授に見せたところ好評だった内容に若干の変更を加えたもの。

直接内容にコメントもなく、別の発表には市民という視点が欠落していた。

市民派で著名な川北秀人氏のワークショップも開催されたがたったの10名、所詮学会といった感じで意識の低さを感じた。

2 ハツ場ダムとその後(加部)

上記の学会発表の帰りに群馬県のハツ場ダムの建設地に偶然の話題から立ち寄りその足で聞き取り調査を行った。

ハツ場ダムは総コストで4,200億円の建設費、環境破壊や温泉地としての価値の減損などの悪影響があり東京地裁でも裁判となっている。

計画は昭和27年からあり、もはや建設の必要性も疑わしい、また、行政の担当者も当然変わり実態が分からない。

群馬は中曽根氏、小淵氏の地盤。

消費税の1%は2.5兆円で、これら必要性が疑わしく、実行することのコストが高いダム、空港、橋、道路をやめれば下げることができる。

これらを数値として検証し「エントロピーと税」というテーマで2006年11月に北大で開催される科学技術社会論学会での学会発表を目論む。

3 社会システム経営研究所(近藤)

民主党の事務局とつながりができ説明に行った。議員にも説明に行こうとしたが門前払いとなった。

民主党は地方のネットワークが弱く、また地方公務員が支持母体となっている関係もあり動きが鈍い。

ネットワークという意味では自民党のほうが強い。

会員は多少増加したが、課題は多い。

今更ではあるが、合資会社よりNPOのほうが良いのではという意見もでた。

4 まちづくり協働研究所(宮田)

簡単な現状報告が宮田からあった。